

| | |
|--------|---|
| 研究課題 | ICTによる児童の心身変容把握及び生徒指導における活用 |
| 副題 | ～いじめ早期発見のための Google Workspace 活用～ |
| キーワード | ICT活用、いじめ対応、生徒指導、教育相談、道徳、校務の効率化、働き方改革 |
| 学校/団体名 | 公立浜松市立尾奈小学校 |
| 所在地 | 〒431-1424 静岡県浜松市浜名区三ヶ日町下尾奈 1431 |
| ホームページ | https://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/ona-e/ |

1. 研究の背景

学校におけるいじめ対策は全国的に大きな課題となっている。大津市で起きた生徒自殺事件をきっかけに平成 25 年には「いじめ防止対策推進法」も制定され、現在、全国の自治体では、いじめ防止対策に力を入れている。本市でもいじめの未然防止と早期発見、いじめの認知、対応等の対策を、教育委員会、学校、保護者、地域等が一体となって進めているが、軽微なものを含め、いじめの件数は未だ減少しておらず、重大事案も起こっていることから、早急な対策が必要となっている。

いじめの未然防止、早期発見は、学級担任一人が行うのではなく、多くの目で見取り、チームとして対応することが大切である。しかしながら、教職員の数は限られており、多くの児童一人一人の心の変容を正しく把握することには限界がある。そこで、ICT を利用し、効果的かつ効率的に子供たちの心の状態を把握することができれば、いじめの未然防止、早期発見につなげることができるのではないかと考え、本研究を進めることとした。

2. 研究の目的

クラウド活用による健康観察システムを構築・運用することにより、児童の心身の変容及び、生徒指導上の諸問題を全教職員で共有し、早期にチームで問題解決を図る。

これまで養護教諭が全学級を巡回して把握していた児童の健康状態を、クラウド上で早期に把握することで、養護教諭の業務効率化を図る。

3. 研究の経過

本校は令和 4 年度、浜松市教育委員会が進める「タブレット型端末活用協力校」に指定された。指定校における研究の中で「Google スプレッドシートでのスケジュール共有」、「ペーパーレス会議の推進」等に力を入れ、全職員が Google Workspace によるデータ共有の効果やデータ修正の手軽さ等を実感し、特に教務主任、学級担任の時間外在校等時間の軽減につなげることができた。一方、本研究を進める中で、職員から「このシステムを応用し、子供の心の状態の把握や健康観察に役立てることはできないか」という声が上がった。これまで本校では、健康観察の結果を担当が手書きの一覧表にまとめ、それを養護教諭が回収し把握していた。これらを一人一台端末から Google フォームを活用して提出すれば迅速に全職員が共有することができる。また出欠だけでなく、同時に児童の心の状態を「心の天気」として入力すれば、児童の小さな心の変容も全職員が共有し、早期にチームで対応できるのではないかと考えた。そ

ここで、令和5年度は、出欠だけでなく、心の状態や家庭からの連絡等を統合したシステムを運用し全職員で共有することで、児童の実態把握や心のケア、いじめ防止、並びに養護教諭の業務量削減を図りたいと考え、以下の取組を実践した。

| 月 | 取組内容 |
|------|---|
| 4月 | ・Google フォームでの健康観察システム作成・運用開始 |
| 5月 | ・生徒指導委員会においてシステム入力内容確認、対応協議（毎月） |
| 6月 | ・いじめアンケート実施 教育相談 ・情報モラルに関する指導（授業）実施 |
| 7月 | ・心の天気共有用モニター設置 ・教育委員会指導主事による進捗状況確認、指導助言 |
| 8月 | ・校内研修（進捗管理、システム見直し） |
| 9月 | ・図書室内に教育相談コーナー設置 ・いじめ防止に係る授業（5年道徳）実践 |
| 10月 | ・いじめアンケート実施 教育相談 ・教育委員会指導主事による進捗状況確認、指導助言 ・情報モラルに関する指導（授業）実施 |
| 11月 | ・いじめ防止に係る授業（2年道徳）実践 ・校内研修（進捗管理、システム見直し） |
| 12月 | ・いじめアンケート実施 |
| 1～2月 | ・ICTを活用した先進的な授業研究校視察・職員間での共有 ・情報モラルに関する指導（授業）実施 |
| 2月 | ・いじめアンケート実施 教育相談 |
| 3月 | ・校内研修（本年度の振り返り、次年度の活用に関する協議） |

4. 代表的な実践

（1）課題予防的生徒指導の視点から

①ICTを活用した「心の健康観察」システムの構築・運用

本校では毎朝登校後、子供たちがChromebookを活用して「心の健康観察」を実施している。本システムでは、児童が「心の状態」を入力する欄があり、困りごとがあれば「かなしい」「モヤモヤ」など、心の状態を入力している。入力結果は、担任や養護教諭がすぐに自身の端末で確認できるため、何かあればその場で声を掛けたり、養護教諭もポイントで声を掛けたりするなどして、課題の早期対応につながっている。また、保護者も心配なことがあれば本システムを利用し、児童の家庭での心身の健康状態を報告しているため、家庭での困りごととも学校と共有できている。[資料1](#)

| 日 | 学年 (がくねん) | 組 (ぐみ) | 番 (ばんごう) | 名前 (なまえ) | ①心身の気分 (きぶん)をおし えてください。 | ②理由 (りゆう)はなぜです か？ | ③「家のごと」や「そのほか」 としりゆうをおしえてください。 |
|------------|--------------|-----------|-------------|-------------|-------------------------------|-------------------------|-----------------------------------|
| 2023/07/11 | 1 | 1 | 10 | モヤモヤ | (きになることがある) | そのほか | 気持ちが悪い |
| 2023/07/07 | 1 | 1 | 10 | かなしい・つらい | (元気がでない) | 学校 (勉強) | |
| 2023/07/07 | 1 | 1 | 10 | モヤモヤ | (きになることがある) | そのほか | あなかが痛い |
| 2023/07/04 | 1 | 1 | 10 | モヤモヤ | (きになることがある) | 学校 (勉強) | |

資料1 児童の「心の状態」集計画面

② 「心の健康観察」結果をもとにした教育相談実施

心の健康観察で児童が入力した情報や日々の教師による見取り等で心配な面が見られる児童については、その都度教育相談を実施し、困りごとを共有するとともに、ストレスの要因を早期に解消するよう努めた。教育相談の内容は校内生徒指導委員会で共有するとともに、サーバー上で共有した。そのため全職員で該当児童を見守ることができ、効果的な声掛けや対応を行うことができた。

③安心して相談できる環境の整備

教育相談はこれまで、普通教室と同じフロアの空き教室等を利用し行っていた。そのため廊下を通る他の児童の様子が気になったり、普段と同じ教室環境であるため緊張がほぐれなかったりして、教育相談の際に児童が本音で話をするのができない場面が見られた。

そこで本年度から、普通教室とは別棟の図書準備室の一角を利用して、新たに教育相談コーナーを設置した。資料2 教育相談コーナーでは、温かみのある机やいすを新たに用意するとともに、パーテーションで外部の視線を遮断するなどして児童が少しでも安心して話ができるよう環境を整えた。

相談コーナーを利用した子供からは「安心して話ができ」「これまでよりも明るい雰囲気よかった」「これからも利用したい」等の声が聞かれた。



資料2 教育相談コーナーで教師に相談する子供

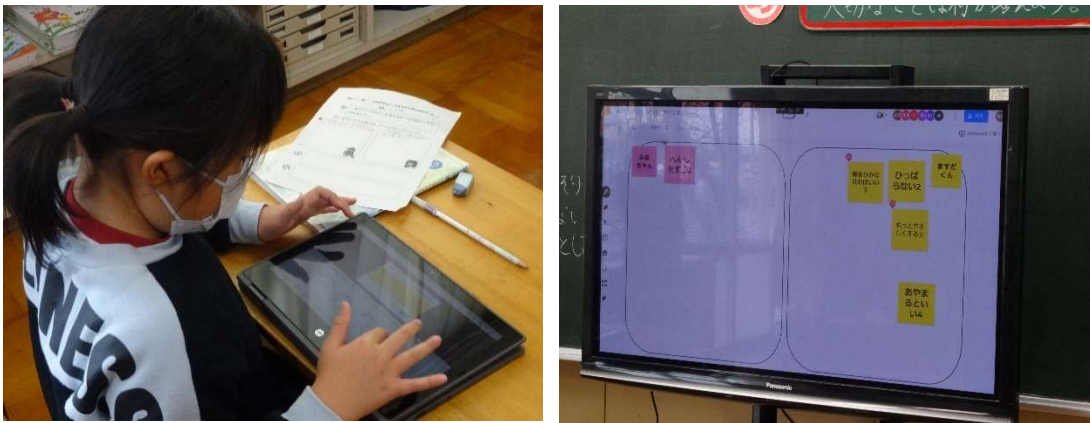
(2) 発達支持的生徒指導の視点から

(1)の取り組み等により、児童の心の変容や生徒指導上の諸問題の早期把握と対応については一定の効果が見られた。しかしながら、その根本解決のためには、子供一人一人の心の耕しが必要不可欠である。安心して学ぶことのできる環境、特に心の環境を整えることで、子供たちは充実した学びを行うことができると考える。そこで本校では発達支持的生徒指導の視点から以下の取り組みを実践した。

①ICT を効果的に活用した道徳授業の実施

低学年の子供たちは、相手に言いたいことや思っていることがあってもそれを適切な言葉や行動で伝えることがうまくできない場面が見られる。2年生「友達の気持ちになって」の実践では、主人公の言動に自らを投影し、自分の言葉や行動を見直すことで互いに理解しあう心の育成を図った。

授業ではGoogle ジャムボードを活用し、自分の考えを入力した。自分と友達の考えを共有し、それぞれの考えを比較・分類することで、子供たちは自分の考えをさらに深めることができた。**資料3** 本時の振り返りでは「これからは友達の気持ちを考えて優しくしたい」「自分の気持ちを分かりやすく伝えたい」などの意見が聞かれた。さらに、タブレットを活用して考えを共有したことで「普段はあまり発表しない友達の意見を知ることができてよかった」などの感想も聞かれた。



資料3 Google ジャムボードを活用した道徳（いじめ防止）授業の様子

②情報モラル指導の充実

情報機器の活用やSNSの利用は便利である反面、使い方を間違えれば、いじめ等大きなトラブルの原因にもなる。SNSトラブルを防ぎ、安全で安心して情報機器を使うことができるよう情報モラル指導は欠かせない。本校ではLINE・浜松市教育委員会が作成した「SNSノートはままつ」を活用した情報モラル指導を実施している。**資料4** 情報モラル指導は情報教育の年間計画に位置付け年間を通して行っている。

「自分と相手とのちがいを」の学習では、子供たちが発達段階に応じて想定されるトラブルをロールプレイした。また、「まじめ」「おとなしい」「一生懸命」など、言葉から受ける印象が人それぞれ違うことから、SNS等への書き込みには十分注意することなどに気付くことができた。



資料4 「SNSノートはままつ」を利用した情報モラル指導

(3) 業務改善の視点から

本実践を行う中で、本校職員は多くの場面でクラウド活用による業務の効率化を実感することができた。これまでもスケジュール共有やペーパーレス会議等でクラウド活用の良さは実感していたが、他の分野でもクラウドを積極的に活用し、業務の効率化を図っている。

①Google フォームを活用した保護者アンケートの実施

これまで紙媒体で行っていた保護者を対象とした学校評価アンケートを Google フォームによるアンケート調査に変更した。その結果、配布、回収に要する時間短縮に加え、集計作業に要する時間も大幅に短縮することができた。

②行事や各種活動の反省

教育課程の反省は、前年度まで Excel で実施していたが、本年度は Google スプレッドシートでの報告に変更した。これまで入力後、データもしくは紙媒体で担当まで提出していたが、クラウド活用により、担当はリアルタイムに内容を確認できるようになった。また、修正結果もすぐに全体共有することができるため、会議等の場でも出された意見もすぐに反映できるようになった。

5. 研究の成果

(1) いじめ認知件数の減少、重大事態ゼロ継続

本校のいじめ認知件数は本システムを含めた日常の複数教員・保護者との丁寧な見取りが効果を上げ、令和4年度から減少している。内容も集団での「仲間無視」の件数が減少しており、日頃の生徒指導が効果を上げていると思われる[資料5]。幸いなことに1学期に比べ、困りごとを入力する児童も減少し、12月末時点で重大事態に該当するような案件も報告されていない。また、学校評価アンケートで「学校が楽しい」と回答した子供も前年度比で約10ポイント上昇しており[資料6]、「心の健康観察」による日頃の教師の細かな見取りや声掛けが一定の効果を上げているものと考えられる。

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 増減 |
|---------|-------------|-------------|----|
| いじめ認知件数 | 5 | 3 | ▲2 |
| 内容 | 仲間無視3、冷やかし2 | 仲間無視1、冷やかし2 | |

[資料5]いじめ認知状況の推移（12月まで）

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 増減(pt) |
|-------------|-------|-------|--------|
| 「学校が楽しい」と回答 | 85.36 | 94.87 | 9.51 |

[資料6]学校評価アンケート（児童）の結果

(2) 養護教諭、教務主任の時間外在校等時間の削減

一方、本システムの導入は業務改善の面からも大きな効果が見られた。これまで子供たちは朝の会の中で挙手や自己申告により健康状態を報告し、担任が用紙に記入する形で健康観察を行っていた。その後、養護教諭が全教室をまわり健康観察用紙を回収し、集計していたため、養護教諭は本業務に多くの時間を要していた。今回の Chromebook 利用により、職員室ですべての児童の健康状態を確認し、瞬時に集計できるようになったため、本業務に係る

手間が大幅に軽減された。養護教諭の時間外在校等時間は前年度比 45.4 ポイント減となり **資料7**、業務量の大幅軽減に一定の効果があつたと考えられる。また、教務主任も各種調査業務等に Google フォームを活用し、時間外在校等時間の削減につなげることができた。クラウド利用が業務軽減に効果があつたと考えられる。 **資料8**

| | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 前年度比 (pt) |
|------|--------|--------|--------|-----------|
| 養護教諭 | 23h13m | 24h45m | 12h41m | ▲45.4 |
| 教務主任 | 26h43m | 21h36m | 20h21m | ▲5.2 |
| 学校全体 | 26h51m | 26h01m | 22h03m | ▲15.4 |

資料7 時間外在校等時間（月平均） 令和3～5年度の推移 ※4～12月までの平均 前年度比は令和4,5年度の比較

| | 令和4年度 | 令和5年度 | 前年度比 (pt) |
|--------------|--------|--------|-----------|
| 教務主任(10,11月) | 25h42m | 23h36m | ▲8.2 |

資料8 アンケート実施期間（10,11月）の教務主任の時間外在校等時間（月平均）令和4,5年度の推移

6. 今後の課題・展望

今回 ICT の活用により、いじめや生徒指導上の諸問題の早期発見につなげることができた。今回得られた児童一人一人の入力データは今後の生徒指導にも大いに役立つと考える。今後はこれらのデータをさらに蓄積するとともに、児童の困り感やその人間関係等を細かく確認・分析し、適切な対応を行うことで、いじめ防止や生徒指導の充実につなげていきたい。

7. おわりに

今回の取り組みを通し、いじめや生徒指導上の諸問題の早期発見について一定の効果を上げることができた。また、担任以外の複数の教員が児童観察を行い、適切な対処ができるようになったことも本実践の成果といえる。今後も取り組みを継続することで、いじめや生徒指導上の諸問題の初期対応を確実にしていきたい。また、児童の情操教育を並行して充実させることも大切である。ICT を効果的に活用した課題予防的生徒指導と、毎日の情操教育による発達支持的生徒指導の両面を並行して充実させていくことで、さらに児童が安心して学ぶことのできる教育環境を構築していきたい。

おわりに、本実践を行うにあたり、指導助言をいただいた浜松市教育委員会、パナソニック教育財団の皆様の本紙面をお借りし、深くお礼申し上げたい。

8. 参考文献

- ・生徒指導提要 文部科学省（2022）
- ・教職員版はままつの教育「いじめ対応の手引き」 浜松市教育委員会（2023）
- ・「第3次浜松市教育総合計画 はままつ人づくり未来プラン～教育の情報化編～」浜松市教育委員会（2020）
- ・「はままつ人づくり未来プラン 学校における働き方改革のための業務改善方針『子供も先生も元気で笑顔あふれる学校づくりに向けて』浜松市教育委員会（2020）